

☆☆今月のテーマ☆☆



・木の実や落ち葉など、晩秋の自然に興味を持って触れたり、遊んだりする。
 ・戸外で身体を動かし、元気に遊ぶ。



うさぎ組(0歳児)



先月の運動会では、(今現在の)こどもたちが出来ることを地道に表現する、格好の場となったのではないのでしょうか?大勢の方を前にしても、動じることなく頑張っている姿は感動を覚えました。これからも異年齢活動を通じ、刺激を感じ、一人ひとりが着実な成長をしていけるようにしていきたいと思います。先月は、小春日和のそよ風の心地よさの中、電車の行き来を見に行ったり、踏切警報機音を耳で楽しみ、反応したりとお散歩を楽しみました。喃語もだんだんとはっきりとした言葉へと変わってきていて、成長を感じています。また、ずり這い、ハイハイから掴まり立ち等、目に見える形で動きの変化も見れて嬉しいし、テクテクと歩きはじめるのが待ち遠しいですね。これからの季節、感染症流行が心配されますが、こまめな換気と手洗い等で予防を図っていききたいと思います。



うさぎ組(1歳児)



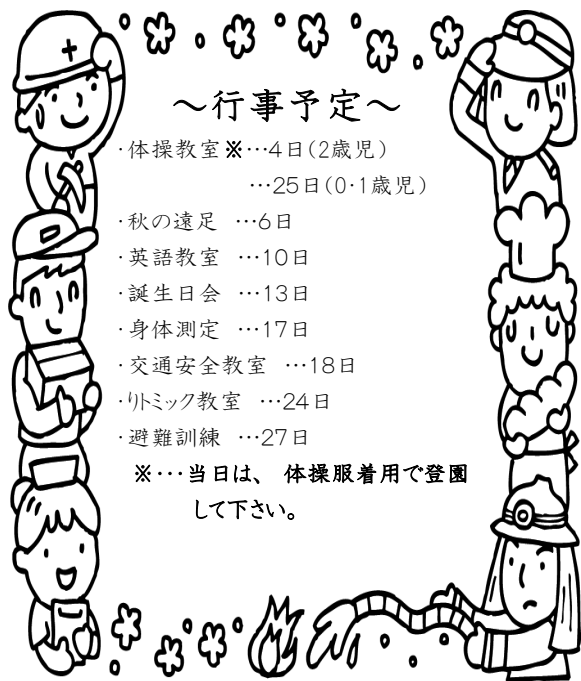
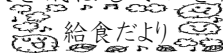
彩り鮮やかな紅葉でお散歩が一段と楽しい季節となりました。運動会では、一人ひとりがかけっこやお遊戯で頑張る姿を披露できたのは何よりだったと思います。また、お家の方と一緒に楽しめたこともいい思い出になったのではないのでしょうか?最近、以前は指にねっとり感のある糊がつくのに気が進まなかったのに、それにも慣れて積極的に制作活動に取り組めるようになったのは何よりと感じています。これからの制作活動の展開がますます楽しみです。また、お友だちとのやり取りも言葉の語彙、表情や仕草も豊かになり、お互いのコミュニケーションがスムーズになってきつつあるようで、これからも目が離せないスピードで成長していきそうです。ただ、そうは言っても細やかなところでの対応はまだまだなので、よく見守り、時には手助けをしたりして、こどもたちの成長を促していきたいと思いますのでよろしくお祈りしま



ぱんだ組(2歳児)



秋の心地よい外気を感じながら、のびのびと体を動かして過ごしています。先月は外遊び日和が多かったのでお散歩を中心に戸外遊びを楽しみました。園の模範児として、道すがらお会いする方との挨拶もバッチリのパンダ組。また、行く先々で「あれは何?」や「寒いねえ〜」など、敏感な視覚や肌感覚を駆使したお散歩を楽しんでいました。一方、室内では大好きな”しっぽ取りゲーム”が今、大ブーム。しっぽを取ったり、取られたりと一喜一憂する中、「もう一度」や「もっとやりたい」と盛り上がりを見せています。このようなルール性の遊びを理解し、楽しめるようになってきているのでこれからも新たなゲームを楽しめていけたらいいなあ〜と考えているところです。今年は暖冬から一変、厳冬の予想もあることから、こどもは”風の子”通りに外遊びを頑張り、感染症も吹き飛ばしていきたいと思



～行事予定～

- ・体操教室 ※…4日(2歳児)
 …25日(0・1歳児)
- ・秋の遠足 …6日
- ・英語教室 …10日
- ・誕生日会 …13日
- ・身体測定 …17日
- ・交通安全教室 …18日
- ・リミック教室 …24日
- ・避難訓練 …27日

※…当日は、体操服着用で登園して下さい。

♪今月の唄♪

- ◇いぬのおまわりさん
- ◆やまのおんがくか
- ◇ふしぎなポケット
- ◆りんごころん

「身土不二」という言葉

難解な言葉ですが、最近のひそかな和食ブームのキーワードとなりそうなのでご紹介します。簡単に言えば「自分の住んでいる所の食材を旬な時季に食す」。欧米化した食生活の一方で生活習慣病の低年齢化が普通になりつつあります。時代の流れにはなかなか逆らえませんが、古き良き時代の食生活にも少し光を当ててみることも決して無駄なことではないのではないかと思います。一考の価値ありではないでしょうか?

季節は冬へと一歩、一歩移ろい、街並みが日々セピア色に染まっていく感じがします。先月末のハロウィンが本来、秋の収穫を祝い、悪霊などを追出す宗教的な行事だったのですが、日本ではそれに相当するのはいつでしょうか? その答えは、天皇陛下が稲の収穫を祝い、翌年の豊穡を祈願する(毎年11月23日の)新嘗祭(にいなめさい)、別称 勤労感謝の日がそれに該当するのではないかと思います。この日は本来、農業で収穫された穀物を神様にお見せすることを目的にし、毎年の収穫物に対して感謝する気持ちは失って欲しくない、という気持ちが込められています。翻って、園でも春先から取組んだトマトのお世話から収穫に加え、お芋の収穫の機会があり、こどもたちにもこの種のことが少しは理解できたのではないかと思います。これは野菜に限らず、肉や魚といった食べものの全般に対して収穫(ないしは捕獲)の喜びや働くことへの感謝、天地の全てのものに対する感謝の心を育むきっかけに繋がっていくことが求められており、これからも園では様々な食育の場を通じて啓蒙していきたいと思